

第一回宿題委員会報告

昨年十二月二十五日(土)に第一回の宿題委員会が中大会館で開催され、すでに運営委員会で設定されている共通課題「農政と村落(むら)」をめぐって、研究の視点・方法などについて検討した。

そこでは、①いま、なぜ「農政と村落」という課題を設定し、何が問題であるのかという課題設定の位置づけと問題の所在の明確化、②村研大会へ向けての研究の方向性、③第一回研究会の準備などが主として論議された。とくに課題設定の位置づけと問題の所在については、「農政」と「村落」の関連性をめぐり、焦点の置きどころ、用語、概念の理解、研究の視角など具体的な討議が行われ、次のような概要の論点がいくつか提出された。

① 「農政と村落」という場合、どちらに焦点を置き、相互の関係をどう把握するのか。

② 「農政」とは何か。ここでは、国の農政を意味するものとするが、その場合、戦前からの産業・経済政策としての農業政策と農村計画に見られるような農村政策とに区別することができるので、農政の展開過程を整理し、いまあらためて農政で村落が問題になる要因を明らかにする必要がある。

③ それには、今日、国が村落を把握せざるを得ない農業危機、経済危機、国家財政の危機といった危機的状况があること、またこれに対応する村落の内発的な動きとの葛藤としての農政が展開していることから、国の論理と村落の論理の関係を視点にすえて検討する必要がある

るのではないか。

④ 具体的には、補助金制度を中心にした農政を通じて浸透する村落の国家的支配の展開過程、およびその構造を明らかにすること、さらには現段階における問題を説明することが重要な課題ではないか。第一回研究会では、以上の論議を整理するとともに、村研大会へ向けての基礎的作業として、今村奈良臣氏から「農政の史的展開と村落」について報告を受け研究することにした。